

今月のトピックス

- | 感染性胃腸炎の流行警報が発令(警報発令基準値:定点あたり 20.00 以上)されました。
- | インフルエンザの流行の目安である定点あたり 1.00 を上回りました。
- | RS ウイルス感染症の報告が多い状況が続いています。
- | 水痘の報告が増加しています。

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	5 件
アメーバ赤痢	4 件	侵襲性肺炎球菌感染症	4 件
ウイルス性肝炎	1 件	梅毒	5 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件	風しん	1 件

- 1 細菌性赤痢: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件ありました。国内での感染が推定されています。
- 2 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 4 件の報告があり、3 件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 3 ウイルス性肝炎: 1 件の B 型肝炎の報告があり、国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。
- 4 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
- 5 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 5 件(AIDS 1 件、無症状病原体保有者 3 件、その他 1 件)の報告がありました。AIDS の症例では、ニューモシスティス肺炎が認められ、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の 3 件とその他の 1 件は、いずれも同性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 侵襲性肺炎球菌感染症: 4 件の報告がありました。1 件は 40 歳代男性(ワクチン接種歴無し)で、蜂窩織炎による右下肢の激痛が見られました。血清型は 15 型でした。もう 1 件は 80 歳代男性(ワクチン接種歴不明)で、症状は発熱で、肺炎が認められました。血清型は 19 型でした。もう 1 件は女兒(ワクチン接種歴 3 回有り)で、症状は発熱と咳で、血清型は 19 型でした。残るもう 1 件は女兒(ワクチン接種歴 4 回有り)で、症状は発熱と全身倦怠感で、血清型は 24 型でした。
- 7 梅毒: 5 件(早期顕症 期 2 件、無症候期 3 件)の報告がありました。いずれも国内での性的接触による感染が推定されています。
- 8 風しん: 1 件の 30 歳代男性の報告(ワクチン接種歴不明)がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施されています。

[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)

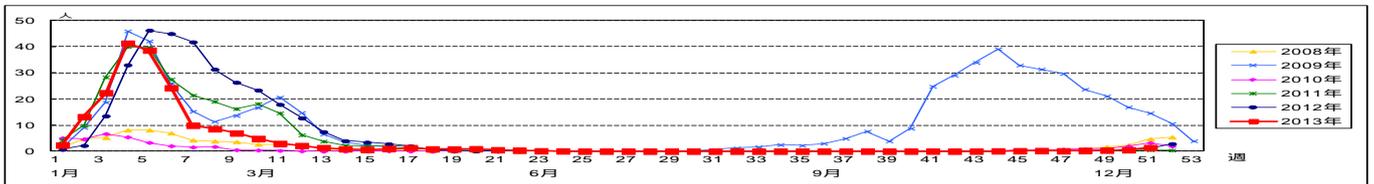
定点把握の対象

- 1 インフルエンザ: 第 51 週は市全体で定点あたり 1.41 と、流行開始の目安となる 1.00 を超えました。区別でも 11 区で 1.00 を上回りました。また、学級閉鎖(小学校学級)が第 50 週 2 件、第 51 週 1 件報告されています。迅速キットの結果では、今シーズン 36 週からの累計で、A 型 54.3%(188 件)、B 型 45.7%(158 件)となっています。今シーズン衛生研究所で検出された結果は AH3 亜型(A 香港型)8 件、AH1pdm09 が 6 件、B 型(ビクトリア系統)5 件です。[全国のウイルス検出状況](#)でも、AH3 亜型(A 香港型)、AH1pdm09、B 型(ビクトリア系統)、B 型(系統不明)が混在しています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

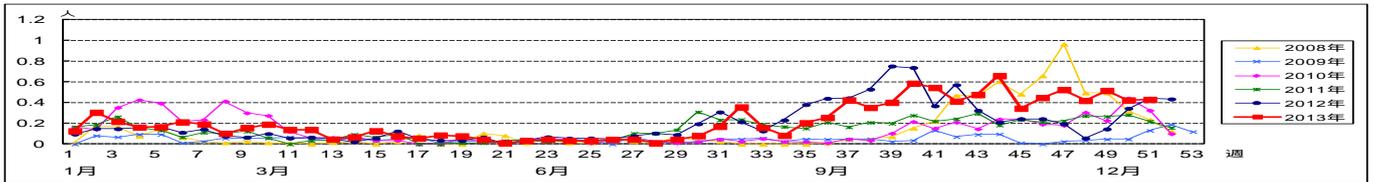
第 48 週	11 月 25 ~ 12 月 1 日
第 49 週	12 月 2 ~ 8 日
第 50 週	12 月 9 ~ 15 日
第 51 週	12 月 16 ~ 22 日

[横浜市インフルエンザ臨時情報](#)(衛生研究所)

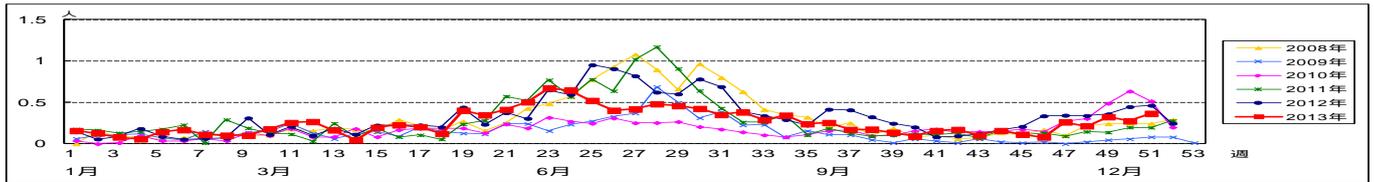
[インフルエンザ予防チラシ](#)(横浜市)



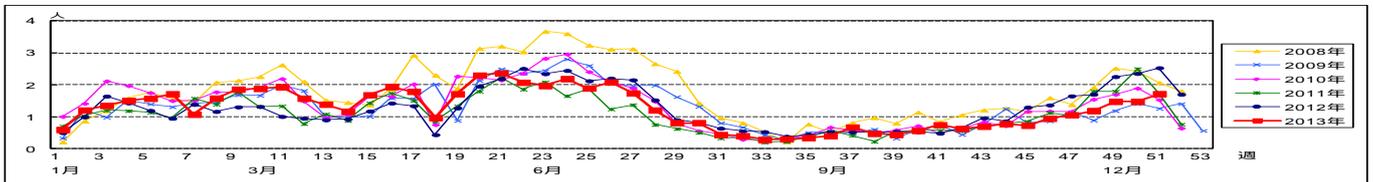
2 **RSウイルス感染症**:市全体で第51週0.43と報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。



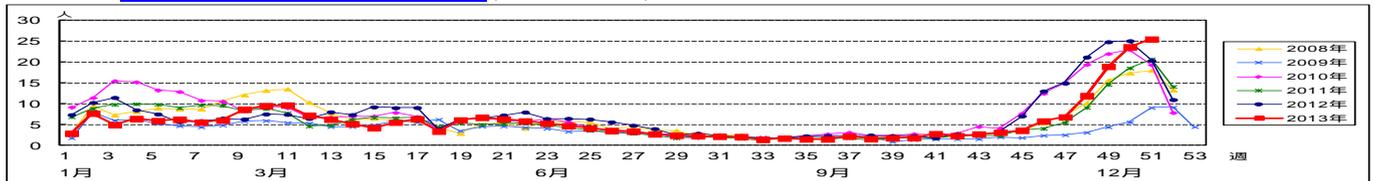
3 **咽頭結膜熱**:市全体で第51週0.37とやや報告が多くなっています。



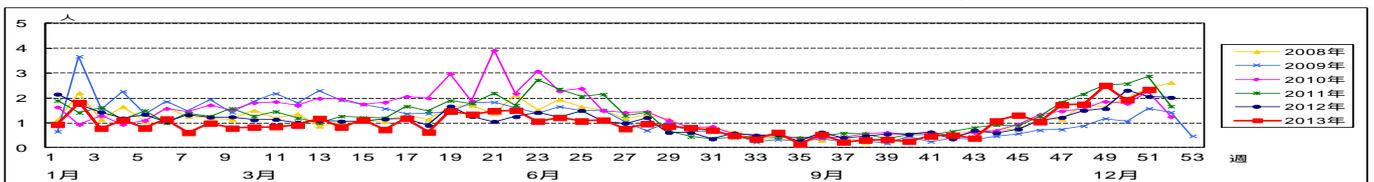
4 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市全体で第51週1.72と漸増傾向が続いています。



5 **感染性胃腸炎**:市全体で第51週25.51と、2012年第50週25.11を上回り、過去5年間と比較して最も報告が多くなっています。区別でも16区で警報レベル(警報発令基準値:定点あたり20.00以上)となっています。例年冬期を中心に流行する疾患であり、今後の注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。
[横浜市感染性胃腸炎臨時情報](#) (衛生研究所)



6 **水痘**:市全体で第51週2.34と報告が増加しており、瀬谷区11.50と警報レベル(警報発令基準値:7.00以上)、旭区4.83、都筑区4.33では注意報レベル(注意報発令基準値4.00以上)となっています。



7 **性感染症**:11月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が6件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が0件でした。

8 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第48週1.25、第49週0.75、第50週0.33、第51週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第50週に1件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

9 **基幹定点月報**:11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件、薬剤耐性緑膿菌感染症2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>